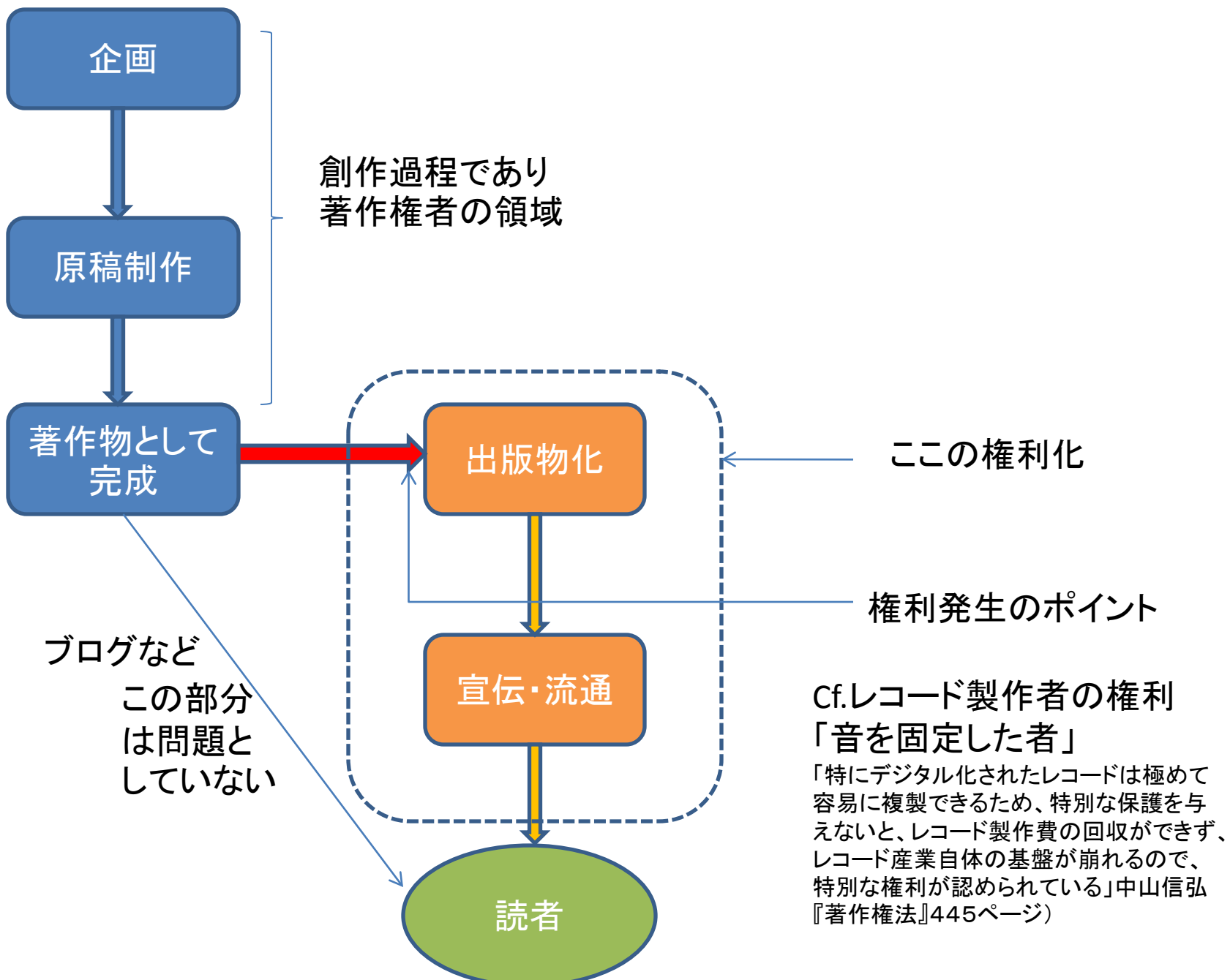


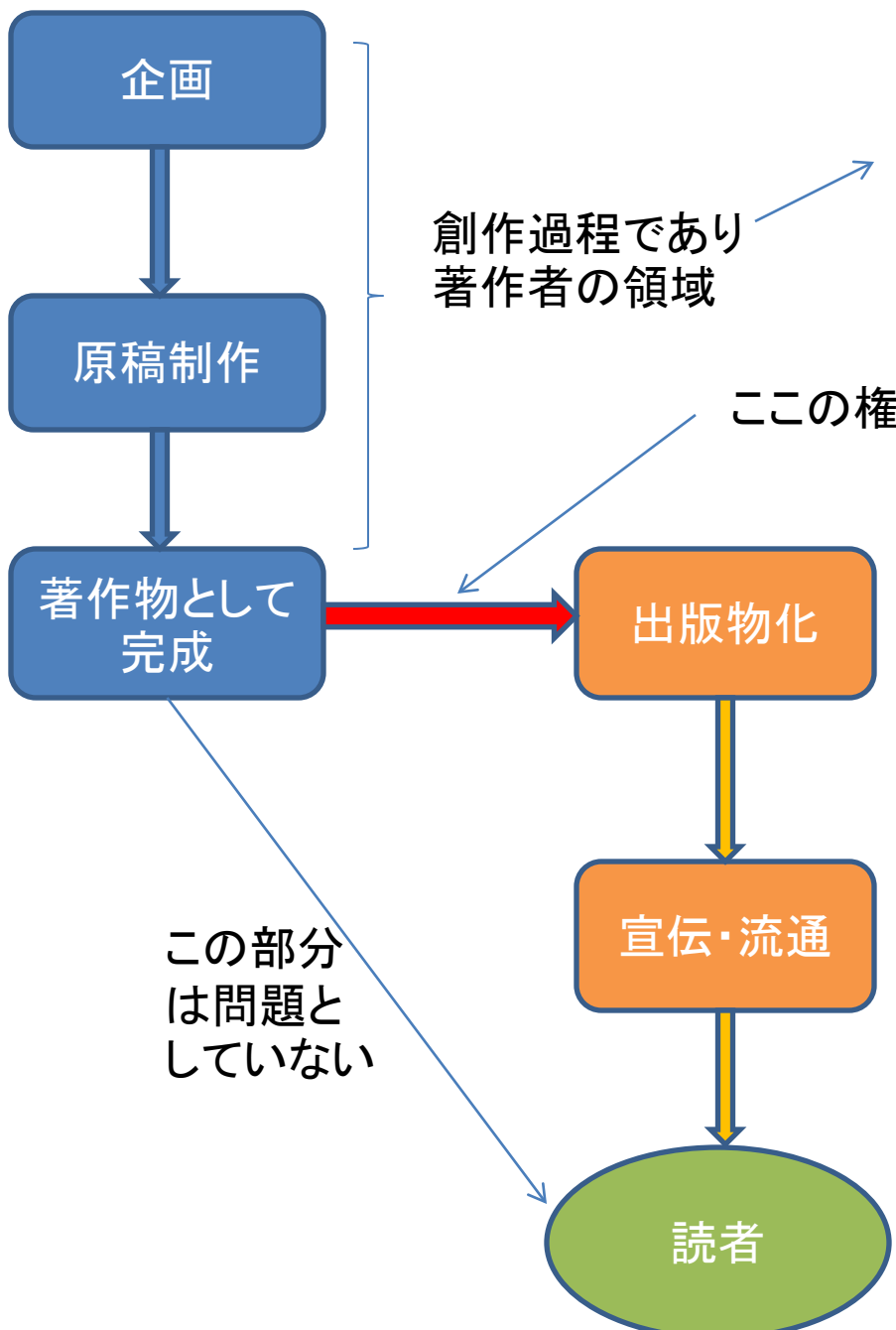
著作物

出版物



著作物

出版物



創作過程で仮に評価すべき編集行為があれば、共同著作としての評価となる

創作過程であり
著作者の領域

この権利化

権利の内容
Cf.レコード製作者の権利
複製権
送信可能化権
譲渡権
貸与権
(商用レコードの二次使用)

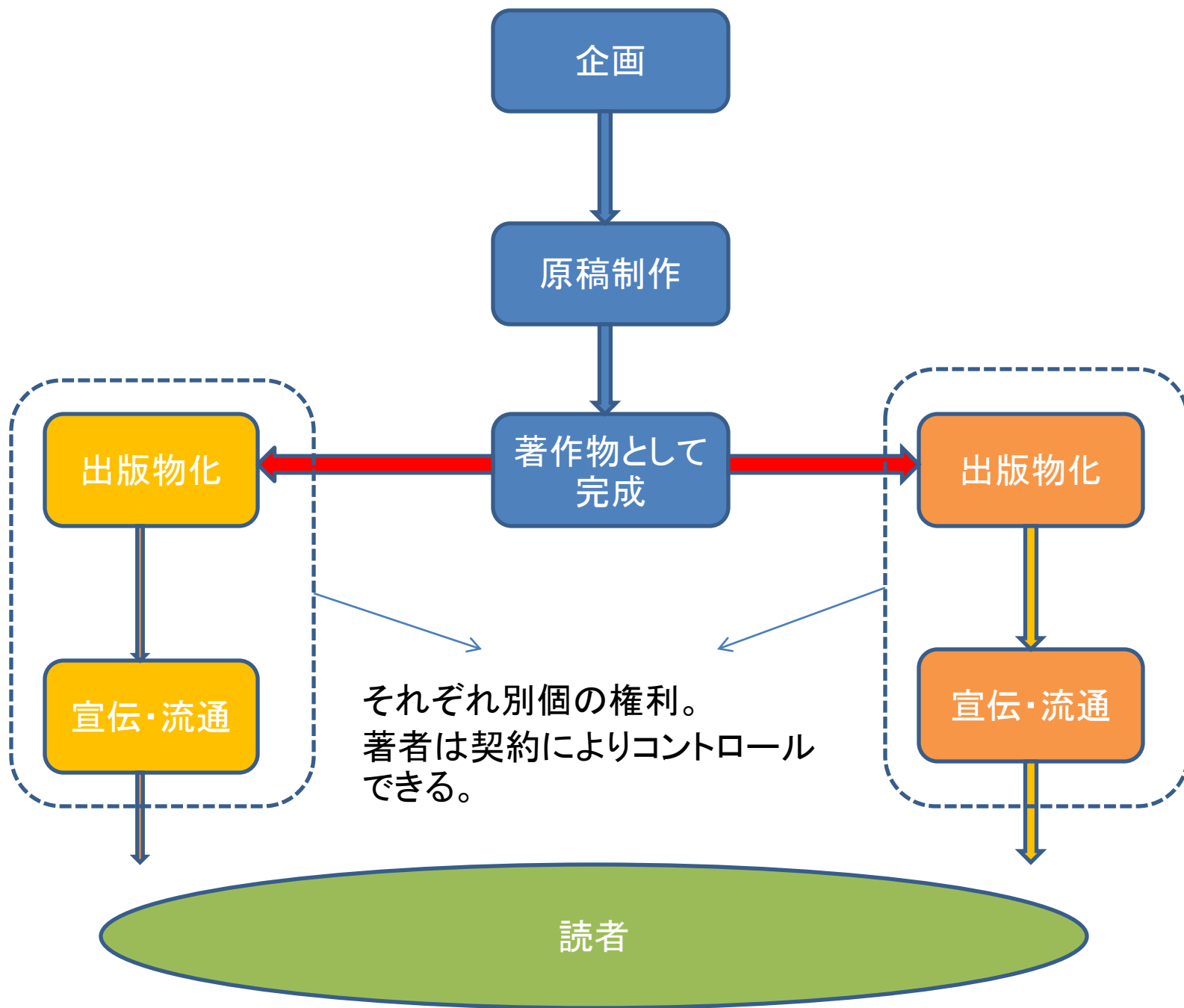
この部分
は問題と
していない

出版物化は当然契約によることになるが、権利が法定されることにより、より簡易な契約実務を実現できる。

出版物B

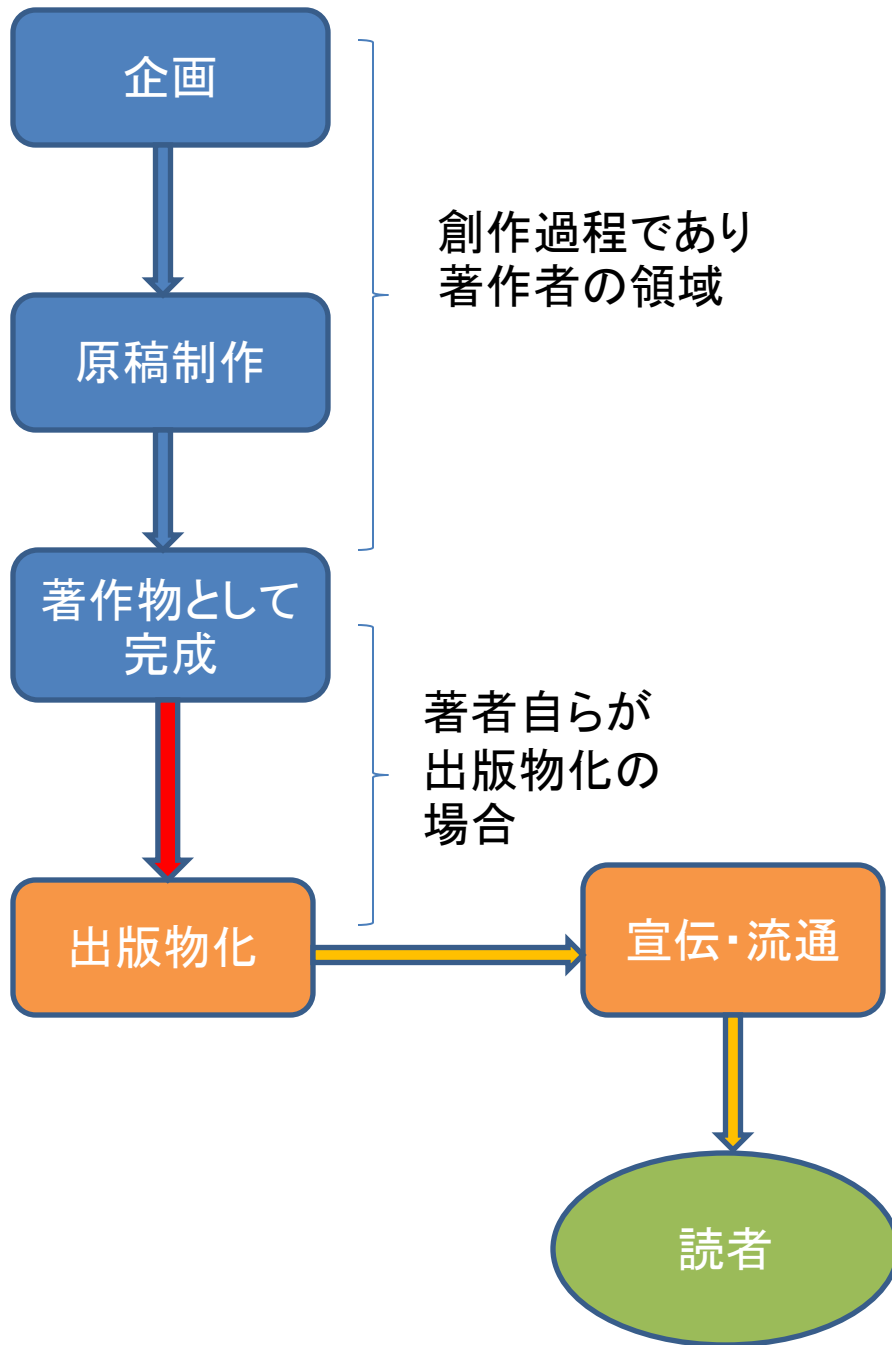
著作物

出版物A



著作物

出版物



創作過程であり
著作者の領域

著者自らが
出版物化の
場合

「出版者」≠「出版社」

権利発生のポイント行為を行ったものが「出版者」となる。

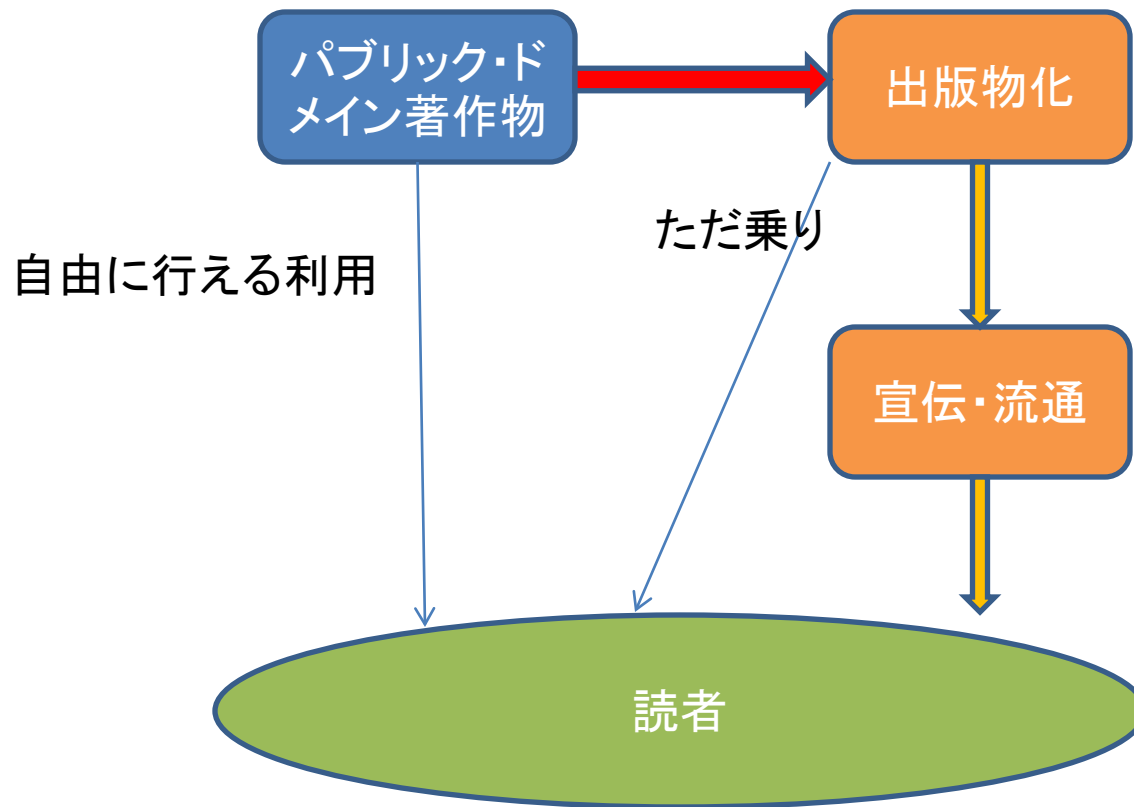
音楽においてもアーティストが自ら原盤を作成すれば「レコード製作者」となる。

著作物

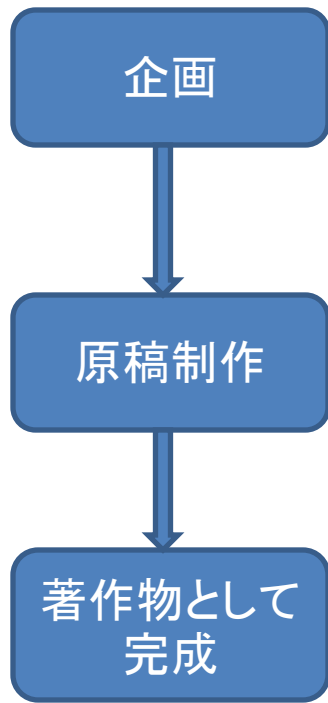
出版物

パブリックドメイン著作物の場合、契約は存在しえない。

著作物の自由な利用と、出版物のただ乗りとは区別する必要がある。



著作物



出版物

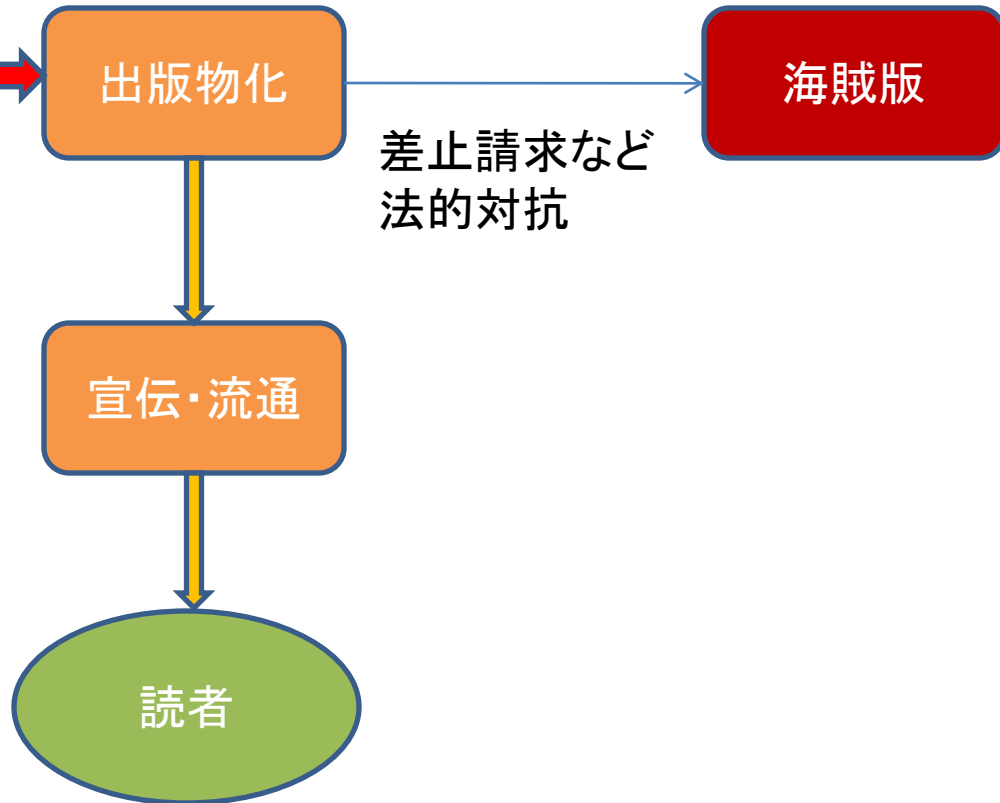
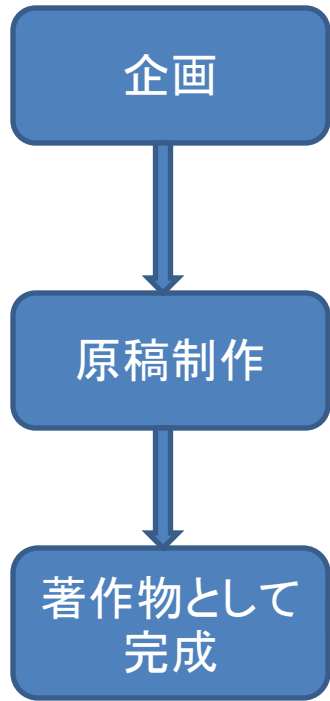


著者の権利授与がなければ、出版者の権利があっても行使はできない。

契約締結を促進させる効果が期待できる。

著作物

出版物



現行法では、紙の海賊版に対し出版権者であれば独自対抗可能。

それ以外は、著者自らが著者の名前で対抗しなければならない。
これは多くの著者にとって過剰な負担であり、対応の迅速性に欠けることも多い。

著作物

出版物



権利の法定化により、流通すべき権利が明確になる。

当事者間の契約だけでは死蔵される(在庫なし重版未定)おそれ大きい。

